

Q26

しびれを感じたら どうしたらいいですか？

抗がん剤治療中に、手足の先にしびれや痛みなどを感じる場合があります。この場合、神経毒性を有する抗がん剤による末梢神経障害の可能性があります。

末梢神経障害の症状は、通常、一過性で、軽度のしびれ感や脱力感などで発症します。他の副作用と異なり、当初は症状が軽微であるため気にされない患者さんも多いのですが、神経毒性の多くは蓄積毒性（これまでに投与された薬剤の合計量が一定の量を超えると症状出現の可能性が高く、かつ症状が強くなる薬剤）であり、抗がん剤治療を安易に継続すれば重篤な機能障害を引き起こす場合もあります。

治療に使われている抗がん剤が神経毒性を有するかどうか、ご本人も知っておかれた方が良いでしょうし、そのような抗がん剤を使用されている場合には、軽度でも“しびれ感”を感じるようでしたら、今後の治療へ影響することもありますので主治医や看護師に相談して下さい。

1) 末梢神経障害の発現機序と症状

抗がん剤による末梢神経障害は、抗がん剤治療を受けられている患者さんの10～20%程度に起こると言われています。そのほとんどが神経毒性を有する抗がん剤を用いた場合に限られていますが¹⁾、その原因の詳細ははまだ解明されていません。

多くの場合、手足の先に、一過性のしびれ感や軽い痛みとして現れますが、その症状や出現時期は様々で、急に手足や口周囲にしびれを感じる場合や、時には喉の奥の違和感から“息がしにくい”“物が飲み込み難い”とを感じる場合もあります。さらに抗がん剤の種類によっては初期には軽い脱力感を、重症になると日常生活に支障をきたすほどの麻痺を生じることもあります。

2) 末梢神経障害を起こしやすい抗がん剤

ご自分の使われている抗がん剤が、末梢神経障害を引き起こしやすいか否か理解しておくことは症状が重篤化するのを予防する上で大切です。末梢神経障害を引き起こす可能性がある抗がん剤を表1に示します。

表1 末梢神経障害を引き起こしやすい抗がん剤 ()内は薬の商品名

分類	抗がん剤
微小管阻害剤タキサン	パクリタキセル (パクリタキセル)
	ドセタキセル (ドセタキセル)
ビンカアルカロイド	ビンクリスチン (オンコビン)
	ビンデシン (フィルデシン)
	ビンブラスチン (エクザール)
	ビノレルビン (ナベルビン)
白金製剤	シスプラチン (シスプラチン)
	オキサリプラチン (エルプラット)
	カルボプラチン (カルボプラチン)
	ネダプラチン (アクブラ)
代謝拮抗剤	メトトレキサート (メソトレキセート) ペメトレキセド (アリムタ)

3) 予防・対応

末梢神経障害による症状を完全に予防することは困難です。しかし、重篤な末梢神経障害は患者さんの日常生活における“生活の質”を低下させ、治療継続への意欲に影響を及ぼすため、可能な限り重篤化を未然に防ぐ必要があります。

手にしびれがあるときには、熱いもの、冷たいもの、危険なものをつかむときに注意しましょう。足にしびれがあるときには、転びやすいので、すべりやすい履物は避けましょう。

前述したように、症状の多くは手足の先に軽い一過性の“しびれ感”や“痛み”として現れますが、特に蓄積性神経障害をきたす薬剤においては、症状に応じ抗がん剤の減量または使用を中止せざるを得ない場合もあります。また、薬剤によっては1回投与量の減量や、投与時間の延長により症状出現を予防できる場合もあります¹⁾²⁾。症状を軽減するために、抗うつ薬、抗痙攣薬などが有効な場合があります。軽度であっても“しびれ感”を感じたら主治医や看護師に相談して下さい。
(宮本英明)

[参考文献]

- 1) 河野勤: 抗がん剤治療の末梢神経障害、緩和医療学 8(3):75-79、2006
- 2) 近藤元三、江口博敏、綱脇現、早川達:TJ(Paclitaxel + Carboplatin) 療法における末梢神経障害の検討、日病薬誌 42(4):489-491、2006
- 3) 厚生労働省: 重篤副作用疾患別対応マニュアル、末梢神経障害: 平成21年5月